

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立馬渡小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成する「単元を貫く問い」を中心に据えた校内研究が推進できており、研究を継続・深化させた。 ・道徳科を中心に心の教育を推進できた。また、子どもが相談しやすい雰囲気づくり・体制づくりも実践できた。次年度も自他を尊重する態度・実践力を養っていく。 ・次年度も子どもたちが生涯にわたって健康を維持するための食習慣・生活習慣づくりの取組を継続していく。 ・学校行事の目的を達成し、また、ICTを活用しながら授業の質を低下させない働き方改革を推進することができた。次年度も手段の改善に取り組んでいく。 ・中学校教員による小学校副担任制や、小学校への乗り入れ授業において成果を挙げている。また、コロナ禍でも地域へ開かれた学校経営を実践できた。次年度も小中教職員同士、地域と教職員との連携強化を図っていく。
2 学校教育目標	思いやりを持ち（徳）、自ら学び（知）、心身を鍛え（体・情）、21世紀を生き抜く児童・生徒の育成 ～自分を愛し、他人を愛し、島を愛する児童生徒に～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的・対話的で深い学びの推進 ②人権・同和教育や道徳教育を柱にした特別支援教育の充実 ③生活実態調査をもとにした家庭と連絡を取り保護者との連携 ④業務改善、きめ細かな指導の充実 ⑤小中一貫教育による個性の伸長

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全教員が、「単元を貫く問い」を設定した授業研究を年1回行う。また、授業研究会にも年に3回以上参加する。	A	・全職員が校内研究のテーマに沿って公開授業を年に1回以上行った。また、公開授業及び授業研究会にも一人3回以上参観できた。県学脚も、上昇傾向にあるので、次年度もさらに学力向上の取組を促進していく。	A	・授業を参観すると、少人数の良さを十分生かし、丁寧な指導が行われている。引き続き取り組んで欲しい。
	○家庭学習の充実	○宿題の提出率を80%以上。	・中学校は授業中の確認テストやプリント宿題を授業や単元終了時等に出す。小学校は授業の復習を中心に宿題を出し、宿題の提出率80%以上をめざす。	B	・小学校での宿題の提出状況は非常に良いが、中学校は、後半で提出率が下がっている。両校とも、授業内容の定着を図る宿題を継続して出すことはできた。	B	・宿題の提出率の高さはよい。全員が忘れず出すような指導を今後も期待する。家庭学習を「している」「していない」の意識の相違が保護者と子どもにあることが興味深い。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ●担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。	・道徳の授業を中心に心の教育を実践する。 ・「唐津市教育の日」に、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の参加型の授業を実施する。	B	・「自分の長所はなにか知っていますか？」というアンケートに対して、「知っている」「少し知っている」と答えた児童生徒は42%であった。 ・「唐津市教育の日」に全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者参加型の授業を実施した。	A	・6月に参観した道徳の授業は保護者も入り、よかったです。と思う。 ・男女の仲もとてもよいと感じる。 ・挨拶をよく返してくれる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上。 ●生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	・職員会議で情報交換を行う。 ・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、いじめ対策委員会を開催する。 ・人権週間の設定と人権集会を開催する。	A	・教員がいじめ防止に対する組織的な対応についての評価は、100%の回答であった。 ・職員会議においては、児童生徒の情報交換を毎回行い、いじめを未然に防ぐ意識の向上を図った。 ・生徒会を中心に人権の大切さを児童生徒へ発信できた。	A	・いじめや体罰などアンケートを行い、実態を把握していることはよい。 ・案件が小さい時から手を打っていることがよく分かった。 ・島内ではいじめなどの話は聞こえてこなかった。 ・家庭でネット型対戦ゲームをしている際、気になる言葉使いがある。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に取り組もうとするための教育活動	○学校生活アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的な回答をした児童（小6）生徒（中3）75%以上	・夢や目標について目標の樹やキャリアパスポートの活用、マナー検定を通し自ら考えさせる時間を設ける。	B	・進路学習や高校調べなどのキャリアと結びつけた指導を行うことができた。 ・学校生活アンケートの「将来への夢や希望をもっている」に小6と中3の91%が肯定的な回答だったが、「キャリアパスポート等を活用しながら、子どもが夢や目標をもてるようなキャリア教育が行えている。」に肯定的に答えた教員が55%と少なかった。	B	・夢や将来なりたい職業について語る子どもが減ったようだ。 ・将来の職業について「分からない」「知らない」という子どもが増えた気がする。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○生活アンケートの「早寝・早起き・朝ご飯」の項目でできていると回答した児童生徒90%以上 ○1日30分以上体を動かす児童生徒90%	・起床、就寝、食事等、規則正しい生活習慣の定着に向け呼びかけを継続する。 ・週に1回小中合同で遊ぶ日、小学校においては児童全員で遊ぶ日を設定する。	B	・中間評価時と同じく、小学校においては規則正しい生活習慣が定着しているが、中学校では起床・就寝時間に乱れが見られた。 ・保健便りなどの通信で生活習慣の改善に関する呼びかけ、長期休業前の指導を行った。	B	・コロナ禍でも睡眠や健康維持など基本的な生活習慣づくりへの取組は評価できる。 ・ゲームが体調や生活習慣に及ぼす影響について理解を深める取り組みを期待する。不登校傾向も生活習慣と関係しているのではないだろうか。家庭との連携が一層必要と感じている。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂食率100%を継続。	・朝食摂食調査を実施し、家庭と連携して指導する。 ・食に関する指導（栄養指導）を食育月間や給食週間、学活等を通し実施する。 ・校務データの整理・活用及び柔軟な校務を割り振る。 ・協働による業務を推進する。 ・定時退勤日、部活動休養日を確実に実施する。	A	・給食集会を行い、食に関わる人への感謝の気持ちや、食に関する指導を行った。 ・毎月、給食便りを発行し、児童生徒への配布、校内への掲示を行った。	A	・子どもたちが食の大切さを理解していることは評価できる。 ・掲示物等、よく工夫がされている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・月の時間外在校等時間が40時間を上回った職員はのべ16名で、そのうち繁忙期の4月に7名であった。過重な労働時間とはなっていないと考えられる。引き続き、より一層の業務の効率化と、業務内容の見直しを行う。	A	・タブレットPCに関する情報提供を行った。各学級において朝の時間の学習や授業での調べ学習等に積極的な活用が見られる。	A	・働き方改革推進の取組は評価できる。体調を崩すことなく仕事に取り組んで欲しい。
	○タブレットPCを活用した教育の個別最適化の推進	○意識調査において、タブレットPCを授業や評価に活用していると回答する教員80%以上	・タブレットPC活用に関する職員研修を実施する。	B	・タブレットPCに関する情報提供を行った。各学級において朝の時間の学習や授業での調べ学習等に積極的な活用が見られる。	A	・授業を参観した際も、ほとんどの学級で電子黒板やタブレットPCを効果的に活用した授業が見られた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○連携(小・中・地域)	○小中学校教職員の協働による教育実践	○中学校教員による授業や学活の時間等を好意的に受け止める児童の割合が80%以上。	・中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。	A	・中学校教員による乗り入れ授業は滞りなく行われており、朝の会や給食等での手厚いサポートも行われた。児童生徒、保護者アンケートでも肯定的に捉えている。	A	・中学校教員による乗り入れ授業は、保護者と子どもの評価が高く、今後も小中連携を進める上で積極的に行って欲しい。
	○島民参加を促進する教育活動の実践	○学校行事や授業への島民の参観や参加回数が年に3回以上。	・学校だけでなく、口コミで行事前に告知を行い、授業参観に来てもらう。 ・島民に、ゲストティーチャーや授業の参加者としての来校を促す。	A	・学校便りや学級通信で年間を通し呼びかけを行い、行事や授業参観に参加して頂いた。 ・英語科や生総合的な学習の時間で島民に先生として来校していただくなどの活動を継続できた。保護者アンケートでも肯定的に捉えている。	A	・コロナ禍で実施できなかった行事もあるが、前向きに開かれた学校経営に取り組んでいることは評価できる。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解のもと、授業公開を行い、思考力・判断力・表現力を育成する校内研究を推進できた。次年度も研究を継続・深化していく。 ・道徳科を中心に心の教育を推進できた。また、子どもが相談しやすい雰囲気づくり・体制づくりも実践できた。次年度も自他を尊重する態度・実践力を養っていく。 ・次年度も子どもたちが生涯にわたって健康を維持するための食習慣・生活習慣づくりの取組を継続していく。 ・1人1台タブレットや電子黒板などのICTを活用しながら授業の質を低下させない働き方改革を推進することができた。次年度も手段の改善に取り組んでいく。 ・中学校教員による小学校副担任制や、小学校への乗り入れ授業において成果を挙げている。また、コロナ禍でも地域へ開かれた学校経営を実践できた。次年度も小中教職員同士、地域と教職員との連携強化を図っていく。
5 総合評価・次年度への展望	<input type="checkbox"/>